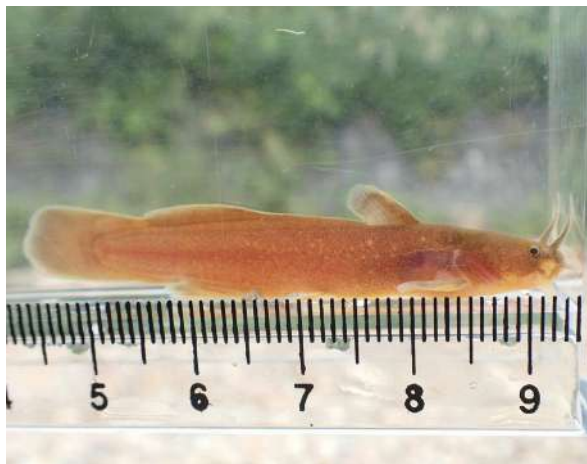


アカザ

(学名: *Liobagrus reinii*)

[ナマズ目 アカザ科]

(写真・文 太田祥作)



▲ 体側面/体色は赤みを帯びる。背鰭と尾鰭の間に、条線のない脂鰭をもつ

▲ 右頭部/ 4対の口ひげをもち、目は退化傾向にある

アカザは赤みを帯びた体色が特徴的な、河川性のナマズの仲間です。体長は10cm程度と小型で、水質の良い河川上流から中流域の、石の隙間に潜んでいます。夜間よく活動し、主に水生昆虫を捕食します。

背鰭と胸鰭の棘には毒があるため、素手で触れる際には注意が必要です。このためか、只見には「バチヨ」や「バチヨイ」（漢字では「蜂魚」）といった呼び名があります。また、捕まえると胸鰭と基底部の骨を擦り合わせて「ギイギイ」と鳴くことで知られています。

只見町内では只見川・伊南川本流に広く分布し、本流のほか支流でも記録されています。ただし、支流における分布の上限は、イワナが棲むような森林内の水源域にまで遡ることはなく、アカザの隠れ家となるような隙間を提供する、大小の石が存在する支流の下部までに限られているようです。環境省レッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類、ふくしまレッドリストでは絶滅危惧ⅠA類に分類され、本種とその生息場所である河川環境の保護・保全が求められています。

日本固有種のアカザですが、近年の遺伝子解析では異なる2集団に大別され、将来的には複数の種へと分類される可能性があります。只見町のアカザは体側面に脱色斑が認められる点などから東日本を中心に分布する集団に該当するとみられます。

只見町ブナセンターからのお知らせ

① 只見町ブナセンター附属施設「ただみ・ブナと川のミュージアム」では、企画展(改訂版)「只見の野生動物とその生態」を開催中です。お誘い合わせのうえ、ぜひお越しください。

2階ギャラリー

② 企画展解説シリーズの新刊が発売となりました。ただみ・ブナと川のミュージアムや、ふるさと館 田子倉のほか、郵送でも承っております。ぜひお買い求めくださいませ。

企画展解説シリーズ

14「只見の古民家は何の木でつくられているのか？—その建築様式と使用木材種」

価格:税込 500円

企画展(改訂版)

「只見の野生動物とその生態」

会期:2020年10月10日(土)~2020年12月14日(月)

場所:ただみ・ブナと川のミュージアム